

「小田原市人・農地プランの見直しに係る地域座談会」の概要

◎開催日時

○平成 31 年 2 月 7 日（木） 18 時 00 分から 19 時 00 分まで

◎開催場所

○小田原市役所 7 階 大会議室

◎出席者

○人・農地プランでは、市内を JA 支店の地域を元に 6 地域に区分して、地域ごとにプランを作成している。

出席した農業者は、次のとおり

川西第 1 : 5 人、川西第 2 : 6 人、川西第 3 : 4 人、

川東第 1 : 2 人、川東第 2 : 3 人、川東第 3 : 2 人 計 22 人

◎内容

○挨拶（小田原市 青木農政課長）

○地域ごとの話し合い（約 50 分間）

川西第 1 地区

- ・プランに関しては、変更案のとおりで良い。
- ・農地が農地でなくなっている。農道の管理も大変、現状維持で手一杯。
- ・土地改良区、地域から出て行く人が増えている。放棄地や農道がますます荒れる。
- ・早川は耕作放棄地が多い、放棄地が増えると農道も荒れてくる。
台風災害あると石垣が崩れる、農道の管理は危険。何か補助金が使えれば良いと思う。
- ・多面的交付金を石橋と早川が利用している。他の地域でも使ってもらおうよう周知するべき。
- ・5 年、10 年後の後継者問題、栽培技術の向上、一人で働くのは大変。
- ・栽培技術を次の世代に継承して欲しい。

川西第 2 地区

- ・プランに関しては、変更案のとおりで良い。
- ・年間雇用を求めている人は多い。農業を教えられる人がもっと必要。
- ・農振地域、なるべく荒れていないところを優先して守るべき。
高齢の方は農地の扱いに困っている。農地は買うよりも借りたほうが得。
- ・農家の子供が農業をやらない。農業生産のプロを育てた方が良い。
- ・研修生はお金がない。研修期間が金銭的に厳しい。

川西第 3 地区

- ・プランに関しては、変更案のとおりで良い。
- ・自分ができなくなってしまった時にお願いできる人が地域にいない。
- ・米のブランド力が向上している。価格に合った金額をつけるべき。儲かれば担い手も増える。
- ・米づくりは同じ水を使っている人達が連携を取らねばならないが、取れていない。
管理について等、地域の中で話し合わなければいけないが、人も集まらない。
- ・地域ごとに座談会をやっても、みんな集まるくらいでなければいけない。

川西第3地区のつづき

- ・話し合いを充実させるため、今回の議事録を次回に資料として出してはどうか。

川東第1地区

- ・プランに関しては、変更案のとおりで良い。
- ・計画の目的がわからない。わかりにくい。
地域の土地を請け負う余裕がありそうな人はいるが、そういった人が座談会に来ていない。
- ・自分は、農機具はもっているが、体力と気力が追いつかない。
この歳になり身体を壊すと、離農のことを考えてしまう。
- ・量より質を求められ、果樹農家も厳しい。人を雇って任せるのも一つの考え方かと思う。

川東第2地区

- ・千代地区ではほ場整備の検討をしていることをうけ、上府中の「今後の地域農業のあり方」において「地域の農業環境・農業経営に対する課題の解決策として期待されるほ場整備の実施の検討をする」の一行を追加。
- ・計画の更新がどうなっているのかがわからない。利点がわからない。だから座談会にも来ない。
計画に登載してくれている人はやる気がある人、座談会に来てくれる人には、例えば市の扱う補助金の情報を説明してあげるとか、明確なメリットを打ち出してみてもどうか。
- ・次の世代に繋いでいかないと、次の世代に渡したい人は多いが、誰にどう渡すかが問題。

川東第3地区

- ・プランに関しては、変更案のとおりで良い。
- ・計画に関する情報がフィードバックされていない。ホームページ等でしっかりと出すべき。
そもそも計画を作るメリットがなんなのかわからない。
- ・座談会にもメリットを感じられない。補助金情報等、もっと提供してみてもどうか。

◎人・農地プラン登載者の推移

地区名	旧登載者数				変更		新登載者数			
	個人	(うち総農)	法人	(うち総農)	個人	法人	個人	(うち総農)	法人	(うち総農)
川西第1	16	(6)	0			16	(6)	0		
川西第2	17	(4)	2	(2)	-1		16	(4)	2	(2)
川西第3	21	(7)	2	(1)	+1-4		18	(5)	2	(1)
川東第1	16	(3)	1		-2		14	(2)	1	(1)
川東第2	23	(16)	0				23	(16)	0	
川東第3	9	(3)	1				9	(4)	1	(1)
計	102	(39)	6	(3)	+1-7	+1	96	(37)	6	(5)